

おびんずるさま

先代住職が発願し平成四年から少しずつ羅漢像をお迎えし、実に二十三年の月日をかけて昨年五月に五百体揃った羅漢さま。長い年月をかけて漸く揃った羅漢さまを皆様に観て頂きたいと釈迦殿と不動殿の渡り廊下を改装してお祀りしております。(詳しくは成寿四十五号をご覧ください)

『五百羅漢』の他にも信仰の対象となる羅漢像に『十六羅漢』があります。その『十六羅漢』の第一が賓頭盧(びんずる)尊者。通称『おびんずるさま』と親しまれている羅漢さまです。

『おびんずるさま』は触れていただけるお仏像として知られています。じかに触ってお祈りできることから「なでほとけ」とも呼ばれ、昔から自分の身体の悪いところと「おびんずるさ

ま」の同じところを交互に撫でると除病の功德があると信仰されています。

さてこの春、善光寺でも「おびんずるさま」をお迎え致しました。そのきっかけになったのは昨年五月の信州善光寺参拝旅行の時のことです。

七年に一度の前立本尊御開帳に合わせての参拝。本堂へ続く階段を登りきると大勢の人に囲まれた『おびんずるさま』がお祀りされています。長年、手の痛みに悩まされていた住職のお母様も一度お願いしてみようと列に並ぶことにしました。順番が来ると「どうか、この手の痛みが癒されますように」と藁にもすがる思いで『おびんずるさま』の手と自分の手を一心に撫で続けました。

旅行から戻り数日が経ったある日。何気なく手を触ると今までの痛みがなくなっているでは



節分追難懺法会に開眼式

ないですか。信じられないという気持ちと共に「私のように身体の痛みで困っているたくさんの人を救われるのではないか」という思いが脳裏に浮かび、その思いを住職に伝えられます。

「『おびんずるさま』をお迎えして、この御利益を檀信徒の皆様方と共に分かち合いたい」

住職もお母様のこの篤い思いを受け止め動き出しました。

『おびんずるさま』のお力があつてのことでしょうか？ 話はトントンとスムーズに運び、今年節分には開眼供養を執り行い、善光寺にお迎えることになりました。

ご寄進頂いたお母様曰く「この『おびんずるさま』のお力はすごいよ。是非お参りに来て元気になってお帰り頂ければ嬉しい限りです」と微笑まれます。

『おびんずるさま』をお祀りしているお寺は

多々ありますが、本堂の正面にお祀りされている事は少なく、多くはお堂の入口や外側・後方にお祀りをされております。何故でしょうか？

お釈迦さまと同時代を生きた『おびんずるさま』。お釈迦さまに巡り合い発心されお弟子となり、修行を重ねついに羅漢に座し「神通力」を得ます。この「神通力」とは不思議な力の事。しかし『おびんずるさま』はついこの不思議な力を世間の人々に自由に誇示し見せびらかしてしまいます。それを知ったお釈迦さまはお叱りになり、「お前は涅槃には至らずに、この世にとどまって仏法を護り人間の病を癒し、多くの衆生を救いなさい」と申し付けられました。

『おびんずるさま』はそのお言葉を守り、今に至っても人々を救う為に修行されているといわれます。

お母様の「皆様に元気になっていただきたい」

という発願により善光寺に祀られ今でも人々を救う為に修行されている『おびんずるさま』。ご自分の除病の功德と共に人を救いたいと願う「仏の心」に触れていただけたら幸いです。

皆様もぜひ善光寺にお越しになり『おびんずるさま』を撫でてお参り下さい。

